



**Special Olympics**  
Nippon  
Toyama

# ハートフル・ニュース

**No. 19**  
2007/2/25

発行 : スペシャルオリンピックス日本・富山

URL <http://www.son-toyama.jp/>

事務局 : 〒939-8208 富山市布瀬町南 2 丁目 10-14

TEL : 076-400-7736 (FAX 兼用) Email : [info@son-toyama.jp](mailto:info@son-toyama.jp)

E-mail : [eiger-sp@p2332.nsk.ne.jp](mailto:eiger-sp@p2332.nsk.ne.jp)

スペシャルオリンピックスは、知的発達障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。S0 では、これらのスポーツ活動に参加する知的発達障がいのある人たちをアスリートと呼び、多くのボランティアやアスリートのファミリーと一緒に活動を支えています。ここ富山でも S0 が活動しています。現在延べ約 110 名のアスリート会員が 5 つの競技種目に取り組んでいます。



2006 年 11 月 3～5 日、熊本で開催されたナショナルゲームにアスリートとコーチ 22 人の選手団が参加しました

## ■今季のエッセイ

### ★出来ることから始めたい・・・

会長 藤井裕久

以前、2000 年富山国体の時に開催された身体障害者スポーツ大会“きらりんぴくとやま”に、後夜祭のボランティアスタッフとして参加させていただいた事がありました。競技に取り組む選手一人ひとりの真剣なまなざしとひたむきな姿は、私に大きな感動と勇気を与えてくれました。また、行政や企業、大会役員、競技委員やご家族、沢山のボランティアの皆さんに支えられて大成功に終わった大会は、富山という地域に“ボランティア精神”という大きな宝物をプレゼントしてくれたと思います。もしかしたらこの大会が、富山県人が心の底に持っていた“思いやりの心やおもてなしの心”を私たち自身に思い出させてくれたのかもしれない。この経験がもとで、最近 2 年間ぐらいは“リトルトゥリー”という身体障害者乗馬の会をお手伝いさせていただきました。

そんなある日、先輩である山口昌広さんから「スペシャルオリンピックスの活動を手伝って見ないか」というお誘いを頂きました。「人に勝つことよりも昨日の自分に勝つことはもっと素晴らしい。ナンバーワンよりオンリーワンという価値観。可能性に勇気を持って挑戦し、諦めずにゴールまでベストを尽くす人こそ真の勝利者である」という S0 の理念をお聞きし、「本当にそのとおりだな！」と感じました。また、勝手知ったる悪友の？清水和夫君や吉田満君が、SON・富山の運営で東奔西走している姿を拝見して、大変心強く感じると共に、また一緒に活動できることもうれしく、楽しみに思います。

とにかく、未熟者の私ですが「出来ることから始めたい・・・」、今はそんな気持ちで一杯です。皆さん、これからもよろしくお願ひします。

## ★アスリート委員会に携わって

戸谷奈穂美

私が SO にボランティアで参加させていただくようになって3年。これまでは行事に参加する側だった私にとって、アスリート委員会をサポートし交流会を開催する側になる事など思いもよらぬことでした。

昨年11月、記念すべき第1回アスリート交流会。準備期間が短い中、アスリート委員たちがお互いに意見を出し合いながら内容を話し合っただけで計画し、会場の予約や買出しを一生懸命に進めてきました。アスリート委員はもちろん、サポートするコーチも緊張のスタートでしたが、ファミリーを始めボランティアの方など、たくさんの方々を支えていただきながら無事に交流会を開催でき、感謝の気持ちで一杯です。

不安を抱えながら引き受けたアスリート委員会のサポートでしたが、第1回アスリート交流会を終え、「楽しかった、良い経験になった」という感想を多く聞き、大きな喜びを得ることができました。また、何より、たくさんの方々との協力してやり遂げることで大きな達成感を味わうことができ、参加できたことを大変嬉しく思っています。

現在、アスリート委員会はアスリート委員5名とサポートのコーチ3名で、第2回アスリート交流会に向けてやる気一杯で準備を進めています。まだまだ非力な私ですが、活動に参加する中でアスリート委員と小さなステップを積み重ねながら少しずつ成長していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

## ★NG 熊本へ参加して

ファミリー応援団 林 慎二

11月3～5日、熊本で開催された『2006年第4回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・熊本』へ参加するにあたって、娘が厳しい選考会を勝ち抜き晴れて代表の座をつかみ取ったときには・・・なんてことは一切なかったのですが、コーチの推薦もあり、仕事も忙しくて最近旅行などしてなかったものですから、この機会にと思い切って家内と二人で参加させてもらいました。

富山空港で飛行機に乗るときからアスリートと応援団とは別行動となり、期間中ずっとコーチの方々に預かっていただきました。コーチの方々にはせっかくの休日にもかかわらず、また、期間中は睡眠時間も削られて、心身ともにアスリートのためにお世話いただいたことにつきまして、心よりお礼申し上げます。そして、期間中、ケガ・病気などなく（帰りの飛行機はちょっと揺れて怖かったでしょうが）、全員笑顔で帰って来られたことについても、スタッフの皆さんの準備、気配りのおかげと思っております、ありがとうございました。

富山より参加したアスリートは、3競技に4人ずつ12人で、それぞれに日ごろの練習の成果を発揮し、素晴らしい成績を収めることができました。大会の雰囲気を楽しみながらも真剣に競技に取り組んでくれたと思います。また、それぞれの競技の結果よりも、開会式から競技、交流会、閉会式まで、素晴らしい笑顔を見せてくれました。一人ひとりのその笑顔が支えていただいたすべての皆様への、アスリートからの“お返し”ではなかったかと思っております。

私たち応援団のほうも、日常の忙しさや育児に付いてのプレッシャーなどから開放され、同じ目的で集まった者同士、観光やショッピング、毎晩の夕食会（飲み会？）など、大変楽しく過ごすことが出来

ました。また、地元でボランティアとして協力いただいた方々や、他県の応援団との交流の機会もあり、新しい・懐かしい出会いがあったことについても、自分の世界が広がったようでも有意義な機会でした。閉会式での感動もここでは書き表せないぐらい素晴らしいものでした。

私自身、普段は地元のクラブチームに所属し、ときたま試合に出たりして適度な緊張感と会社以外の人との交流を楽しんでいます。また、息子の部活動保護者会では試合毎に熱くなって楽しませてもらっています。そんな私でも、熊本へ行く前と行って来てからとでは意識が大きく変わり、かかわりたい、協力できることがあれば参加したいという思いがますます強くなりました。



今回の熊本行きはその意味でも非常にいい経験・思い出になり、来年の山形にはぜひ、（娘が選ばれなくて、応援団でなかったとしても）ボランティアとしてでも参加したいと思っています。

皆さんも家族で参加し、一緒に楽しみましょう！

★第4回夏季ナショナルゲーム熊本大会を終えて・・・

副団長(事務局長) 吉田 満

11月3日から6日の日程で、第4回夏季ナショナルゲーム熊本大会に、水泳、陸上、ボウリングの3種目にアスリート12名を含む22名の選手団で出場してきました。

出発前は遠い熊本に飛行機でかつ乗り継ぎもあり、行くこと自体に不安もありましたが、何のトラブルもなく無事着くことができました。開会式では、高円宮妃殿下がお招きされていて、地元出身の山下泰裕さんに加え岩崎恭子さんもトーチランで会場に入場されました。このように華やかなムードで始まった大会は、熊本の皆様の“おもてなしの心”が随所に感じられ、また天候にも恵まれたこともあって、さわやかな気持ちで競技することができました。

アスリートはプログラムで練習した成果を十分発揮でき、表彰台では満足した笑顔でいっぱいでした。競技結果は、失格者もなく予想を大きく上回るすば

らしいものでした。地元ボランティア等の対応も的確かつ親切で、懇親会では多くの友達ができたと思います。

また、いつもそうなのですが、表彰台に立つアスリートを見ると感動で目頭に熱いものを感じます。一方、私自身は今までのS0の大会を見ていて「S0の原点とは何だろうか」そして、「競技や大会はどう何だろうか?」と感ずることが多々あります。「アスリートは本当に楽しいのだろうか?」「表彰台に立ってうれしいのだろうか?」といったことが心の中に湧いてきたりもします。今後、アスリートがより一層はばたいていくには、改めてS0の原点を考え、アスリートの声なき声をどう吸い上げるか、もっと可能性を信じ「信頼」という言葉を見つめ直したいものです。



★3泊4日を共にして

ボウリング競技の追加スタッフとして、初めて参加するナショナルゲーム。私自身、競技はしませんが、競技に向けてアスリートのコンディションを万全に持っていけるか、出発前は不安と緊張でいっぱいでした。しかし、熊本空港や開会式会場でたくさんの地元ボランティアの方々に歓迎されるうちに、そんな不安も徐々に薄らいでいきました。宿泊先のファームランドは想像以上に広く、ちょっと目を離すとアスリートたちがどこかに行ってしまうようでした。部屋の外に出る度に十分な注意を払っていましたが、その必要はありませんでした。なぜなら、宿でも多くのボランティアの方々の協力があったからです。また普段、私がコーチとしてアスリートと接する機会は、ほとんどが日常のプログラムの中だけです。このように寝食を共にしながら、アスリートが少しでも自立し成長できるよう手助けできたことは非常に貴重な経験でした。例えば、バイク形式の食事の時、初日は食べきれないほどの量を運んできたアスリートが、最終日には自分の適量を判断して取ってきました。それは些細なことかも知れ

競技追加スタッフ(事務局次長) 戸田武宏

ませんが、S0のコーチであればこそ感じることできた喜びでした。3泊4日のナショナルゲームを通じて、競技に参加することだけではなく、生活の中でも彼らアスリートが成長できたことは確かです。そして、私もこの全国大会を通して得られた経験を、今後のSON・富山での活動に生かしていきたいと思っています。



## ■ビッグゲームとプログラム

昨年11月に行われた『2006年第4回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・熊本』に出場した12名のアスリート達の中からなんと3名が、来る10月に開催される『2007年SO夏季世界大会・上海』にエントリーしています。なんとかSON・富山から初の世界大会出場を叶えてほしいものです。そのときは、より一層皆さんの応援をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

また来年度は、2008年第4回SON・冬季ナショナルゲーム・山形が開催されます。もちろんそのことを視野に入れながら現在、冬季プログラムのアルペンスキー・フロアホッケーが活発に行われている真最中です。より多くのアスリート・コーチとともに、参加できればと思っています。こちらの方もまたご

## スポーツプログラム委員長 澤田守弘

協力よろしくお願いします。

と、ここまで大会の話ばかりでしたが、今年度は夏季プログラムとして、これまでの陸上競技・水泳・ボウリングに加えて、サッカーとバスケットボールの2種目を新しく追加する予定です。冬季競技のフロアホッケーが皆さんから支持されていることから、もっといろいろな団体競技としてチャレンジする機会をつくりたいと思っていました。今回、両種目の経験豊富なスタッフが力を添えてくれることになり、実現の運びとなりました。興味のある方は、経験の有無に係わらずまずは参加してみてください。

今年度もSON・富山、皆さんの盛り上げで、ますます元気にいきましょう！

## ■運営委員会から〈新規ボランティア勧誘元年〉

SON・富山では、準備委員会時代からのボランティアが継続的に支援してくださる中、アスリートが順調に増えるに従いプログラム現場でのボランティアの拡大が重要なテーマになっています。運営委員会では、今年度を新規ボランティア勧誘元年と位置づ

けています。プログラム等へのファミリー自身の参加はもちろん、お知り合いの方々へ新規ボランティア参加に向けた働きかけをよろしくお願いいたします。

〈賛助金・寄付金をお寄せ下さった皆様（2006年2月～2006年10月）〉

敬称略

	お名前	金額	お名前	金額	お名前	金額
個人賛助	若松 文枝	6,000円	柴田 和彦	9,000円	尾山 勝治	3,000円
	牧野 歌子	3,000円	夏野 公秀	3,000円	金田 秀一	3,000円
	西田 直子	3,000円	塚本 勝宏	3,000円	金田 好正	3,000円
	圓佛 吉秀	3,000円	塚本 和典	3,000円	常木 修一	3,000円
	柴田 信作	6,000円	塚本 須麻子	3,000円	常木 洋美子	3,000円
	村中 大治	3,000円	田嶋 静江	3,000円	中村 ゆかり	3,000円
	村中 洋介	3,000円	田中 ひさ子	3,000円	開 裕貴	3,000円
	高田 裕一	3,000円	東海 さつ子	3,000円	開 和美	3,000円
	林 慎二	3,000円	坂井 芳夫	3,000円	開 麻佐巳	3,000円
寄付金	中山 真美	30,000円	村中 大治	10,000円	澤田 守弘	50,000円
	大谷製鉄株式会社	20,000円				

ありがとうございました

### 賛助金

<個人> 一口 3,000円

<企業・団体> 一口 10,000円

※ お問い合わせは、SON・富山事務局あてメールもしくはファックスをお願いします。

### 賛助金・寄付金振込先

スペシャルオリンピックス日本・富山

(日本は、「ニッポン」としてください。)

北陸銀行本店(店番101)、普通口座 5207770

THE DOCUMENT COMPANY  
**FUJI XEROX**



(オプション付)

**ApeosPort C6550 I**

卓越した性能を備えた  
“知的フィールド  
への入り口”

**北陸ゼロックス株式会社**

本社 金沢市本町11番16号  
TEL(076)280-0900 FAX(076)280-0901  
<http://www.fujixerox.co.jp/hzx/>